

日本損害鑑定協会 第16回定時会員総会開催

26年度事業計画、予算などを報告

日本損害鑑定協会は6月23日、東京都千代田区の損保会館で第16回定時会員総会を開催した。総会では、2025年度事業報告、26年度事業計画および収支予算の報告が行われたほか、損害鑑定人CPD (Continuing Professional Development) 認証制度の準備状況および運営の方向性について説明が行われた。決議事項では、25年度計算書類承認、理事選任、監事選任の3議案が審議され、全て承認された。総会後に開かれた理事会では、田中公成氏 (株)甘糟鑑定事務所代表取締役が新会長に選任され、協会活動の着実な推進に向けた抱負を語った。

田中新会長、協会活動の着実な推進に意欲

冒頭、あいさつを行った太田英俊会長 (株)中央損害鑑定代表取締役会長は、昨年から今年にかけて地震や集中豪雨・豪雪などの自然災害が相次いだことに触れ、会員の対応が続いていることに謝意を示した。地震については、全国各地で震度5を超える地震が発生していることを踏まえ、首都直下地震や南海トラフ地震への備えの重要性をあらためて示した。また、気候変動の影響とみられる気温の変化や感染

症の流行にも言及し、「健康管理には十分留意いただきたい」と呼び掛けた。事業面では、前年度に各種研修を計画通り実施したことや、11月に第11回損害鑑定フォーラムを開催したことを報告した。同フォーラムでは、オンライン配信を含めて多くの参加があり、アンケートでも好評を得たと説明し、会員の協力に謝意を述べた。

総会では、報告事項として、25年度事業報告、26年度事業計画、26年度収支予算、損害鑑定人CPD 認証制度の準備状況および運営の方向性について説明した。決議事項では、①25年度計算書類承認②理事選任③監事選任の3議案が審議され、いずれも原案通り承認された。

とした同協会会員向けの制度として導入方針が審議され、承認されている。今回の総会では、27年4月の運用開始を見据え、その準備状況と今後の運営方針を説明し、制度開始に向けた体制整備を進めていく考えを明らかにした。

田田会長は、本総会をもって会長の任期を終え、理事も退任した。閉会に当たり、2016年の理事就任以来、約10年にわたり協会活動に携わってきた歩みを振り返った。特に、教育・研修関連の事業に関わり、ASC (Adjusting Skills College) の研修体系や講義内容の見直し、各種講座の拡充などを進めてきたと説明した。また、直近4年間は会長として、損害鑑定人の業務環境改善のため、「損害鑑定人の業務範囲」につ

損保各社へ周知徹底を依頼したほか、損害鑑定人CPD 認証制度の創設に向けた体制整備や、公益法人としての組織運営体制の整備、大規模地震への備えに関する研究・検討などに注力してきたと述べた。

その上で、「これらは皆さんの温かいご支援、ご協力により進めることができた」と謝意を示した。今後は外部理事、監事を加えた新体制に移ることに触れ、協会と関連団体との連携をさらに深めながら、業界課題や新たな取り組みについても研究・検討を進めていくよう、引き続き協力を求めた。

総会後の理事会で選任された田中新会長は就任あいさつで、昨年50周年を迎えた歴史ある協会の会長を務めることについて、「夢にも思っておらず、葛藤と不安もあった」としつつ、「お受けした以上は、微力ながら全力で取り組んでまいりたい」と決意を示した。



太田会長



田中新会長

た、直近4年間は会長として、損害鑑定人の業務環境改善のため、「損害鑑定人の業務範囲」について、損保協会を通じて

りだ」と語った。また、会員各社の中には世代継承の時期を迎えているところも少なくなく、理事メンバーも徐々に入れ替わってきていると述べた。その上で、「諸先輩から培った鑑定人の基本理念を持ちながらも、環境の変化には柔軟に対応し、新旧の架け橋になれるように皆さまと意見交換を行い、公益社団法人としての協会活動を着実に進めていきたい」と抱負を語った。